

五 諸國の探檢〔續〕

さてスタイン氏はかくて保管されて居る書物を容易に手に入れることが出来たかといふに、なかなかさうは行かなかつた。無智で然も信仰に凝固まつた王道士は、何の爲に氏が此の書物を見ようとするのかが既に不可解の問題で、容易に見せようとしなかつたのを、面白いことには例の玄奘三藏を種に使つて、その功德を稱し、求法の爲の大旅行を嘆美し、其の跡を尋ねるものだと自分を説明して俄に道士の信用と同情とを買ふことになり、初めて之を見るを得たとのことである。その後はかゝる探檢家の一つの資格ともいふべき巧妙な外交術によつて、遂に道士を説き伏せて、漢文以外の書物の大部分、及び、漢文のものだけでも九千點以上〔内三分の一は完全な卷子本、その他は斷簡〕を買ひ取り、本國に送ることになつた。

此の年の暮にウルムチに逗留して居つた佛のペリオ氏は、其の地で同じく燉煌の千佛洞から出た書物を見て、貴重な古寫本であることを知り、直に南に下つて翌年二月に此の地に着いた。スタイン氏に先鞭をつけられたのを知つた時には、遣る瀬無き無念を感じたとの事だが、併し佛恩廣大とも謂はうか、多くの書物は尙残されて、漢學に明るい氏の撰取するに任せた。スタイン氏の漢學に通ぜざる點が氏の利する所となつて、此の選り残りの中から、更に選ばれた數千卷の書中には、比類無き貴重の書が多く存した。ペリオ氏の獲た稀覯の書が北京で披露されて、識者の大騒ぎとなり、殘餘は急に北京に送致させて、今京師圖書館に藏せられて居る。

僅少の例外を除いては、此等の遺書はすべて宋初以前のもので、經史子集の各部類や、佛典を始め、景教や摩尼